北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	日本文学と日本語B	科目コード	1131	単位数	3
担当者名	保坂　智	開講セメスター	第2セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	到達目標	B	実務経験	無
ナンバリング	BLl202	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

さまざまな文体・ジャンルの表現を題材として、日本語の文章表現についての理解を図り教養を高め、文章によるコミュニケーション技術を身に付けてもらう。文字と文体について学び、どのようにして日本語散文表現が成立したかを理解するとともに、実際に書くことを通して体験的に学習していく。

到達目標

・さまざまな文体・ジャンルの日本語表現の成立過程と特色を知識として理解する。
・自分の思いや考えを適切に記述することができる。
・言語と他の〈メディア〉の表現との差異を認識し、それぞれの特性を活かした表現ができる。

授業内容

1週目 ガイダンス
2週目 【実践編1】作文①：私について（作業・評価・添削）　（学内アクセスポイント使用）
3週目 【講義編1】文字史（漢字）
4週目 【講義編2】文字史（仮名）
5週目 【講義編3】オノマトペ　＋　第１回試験
6週目 【実践編2】作文②：最初の記憶（作業・評価・添削）　（学内アクセスポイント使用）
7週目 【講義編4】文体史（和化漢文）
8週目 【講義編5】文体史（漢文訓読体）
9週目 【実践編3】作文③：コップの水（作業・評価・添削）　（学内アクセスポイント使用）
10週目 【講義編6】文体史（和文）
11週目 【実践編4】メディア間の翻訳①〈言語と音楽〉（作業・評価・添削）　（学内アクセスポイント使用）
12週目 【講義編7】文体史（和漢混交文）
13週目 【実践編5】メディア間の翻訳②〈言語と漫画〉（作業・評価・添削）　（学内アクセスポイント使用）
14週目 【実践編6】メディア間の翻訳③〈言語と映画〉（作業・評価・添削）　（学内アクセスポイント使用）
15週目 まとめ　＋　第2回試験
16週目 課題に対するフィードバックを実施。但し、やむを得ず、15週目までの授業内容を実施できなかった場合は、補講を行う。

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（予習）講義プリントや扱う文章をLMSに公開するので、あらかじめ確認してから講義に臨む。（90分程度）
（復習）講義後は、配布された参考資料やプリントを復習し、理解に努める。また【実践編】の後では、学生相互の批評を行なってもらう。（90分程度）

成績評価の方法・基準

試験を2回、作文提出を6回課す。試験40%、作文などの提出課題や講義へのコミットメントは60%として評価する。なお、5回欠席した場合は評価の対象としない。

履修上の留意点

文章を実際に書いてもらう【実践編】と日本語による散文表現の成立を考察する【講義編】とからなる。【実践編】の提出物は評価対象となる。また、書いたものは、学生同士でも読み合うものとする。

課題に対するフィードバックの方法

提出物は、その都度コメントをつけてフィードバックを行う。

テキスト

特になし

参考書

・山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）842円
必要に応じて適宜紹介する。

更新日付

2026/01/26 12:28